

来週の市場とレート予想

	12/4 (月)	12/5 (火)	12/6 (水)	12/7 (木)	12/8 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 600	△ 1,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 76,400	+ 3,000	+ 1,000	△ 2,000	△ 3,000
資金需給	△ 77,000	+ 2,000	ト ン	△ 4,000	△ 5,000
主な要因	法人税・消費税・保険揚げ 国庫短期証券 発行・償還(3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,400 CP等買入 △ 100 社債等買入 △ 100 国債補完供給 + 100 成長基盤強化 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,500 ETF買入 + 300	国債買入 + 9,900 短国買入 + 7,500			
(日本)	マネタリーベース(日銀、11月 日銀営業毎旬報告 (11月30日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	基調的なインフレ率を 捕捉するための指標(日銀)	政井日銀審議委員 講演、記者会見(神戸市内)	景気動向指数(10月、内閣府) 消費活動指数(日銀)	国際収支(10月、財務省) 国内総生産(7-9月改定値・ 15年度年次推計、内閣府) 毎月勤労統計(10月、厚労省)
(海外)	米 製造業受注指数(10月) 欧 ユーロ圏生産者 物価指数(10月) 欧 ユーロ圏財務相会合	米 貿易収支(10月) 米 ISM非製造業 総合景況指数(11月) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月、確定値) 欧 ユーロ圏総合PMI (11月、改訂値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI (11月、改訂値)	米 ADP雇用統計(11月)	米 新規失業保険申請件数 (2日終了週) 独 鉱工業生産(10月)	米 雇用統計(11月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(12月、速報値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.025 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、363兆7,500億円から始まった。その後、同残高は短国・国債買入オペを主因に増加し、週末には364兆 3,100億円となった。無担保コールON物金利は、月末要因による波乱もなく、先週末からほぼ横ばい圏で推移した。同加重平均金利は、週を通して△0.056~△0.053%と、狭いレンジでの推移となった。ターム物は、1~2W物で△0.04%前後の取引が中心であった。

来週は、基調的なインフレ率を捕捉するための指標(5日)、政井日銀審議委員の講演(6日)、国内総生産(7-9月・改定値)(8日)、海外では、ユーロ圏GDP(7-9月・改定値)(5日)、米雇用統計(8日)などが予定されている。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆8,800億円で、週間償還額の約1兆3,900億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。月末日のスタートで、償還額と同程度の発行が確認され、月初スタートでもまとまった金額の発行があった。週間を通じ、活況な商状となった。11月末の発行残高は、16兆5,602億円(前月比7,344億円の増加)。一般事業法人では、賞与資金や納税対応といった資金需要が生じ、発行増に繋がったと思われる。

発行レートは、ほぼ横這い推移で薄いマイナスから0%近辺での出会いであった。

来週の償還額は、4,300億円程度となっている。先週に引き続き、賞与資金手当て等の発行が見込まれる為、償還超を予想する。

発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き薄いマイナスから0%近辺での出会いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移を予想。6日に、CP等買入オペ(4,000億円程度)がオファーされる予定。

<TDB>

30日に国庫短期証券3M723回債の入札が行われた、最高落札レートは△0.1712%(前回債△0.2456%)、平均落札レートは△0.1995%(前回債△0.2538%)となり、前回債から利回りが大きく上昇した。セカンダリー市場では、3M△0.170%で出合が見られた。来週は6日に6M、7日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初△0.09%~△0.095%から始まり、月末取引となる30日受渡しではS/Nで△0.10%台前半、T/Nでは△0.10%近辺で多く取引された。TDB3Mの発行日である4日受渡しでは△0.085%~△0.09%に上昇。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされたが、レート水準に大きな変化はなく△0.085%~△0.09%が出合いの中心となった。

SC取引では10年 348 回債のbidが多く、週を通して概ね△0.10%半ば~後半の出合であったが、29日の国債買入オペ後に△0.25%近辺の出合いが一部見られた。その他では2年 380・381・382 回債、5年 131・132・133 回債、10年 335・336・338・340・341・342・346・347・348 回債、20年 161・162 回債、30年 55・56 回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。